



エネルギー講演会
東嶋和子氏

「一緒に考えましょう
私たちの暮らし・環境・エネルギー」

10月21日、上関町青壮年連絡協議会が「エネルギー講演会」を開催しました。講師は、科学ジャーナリストの東嶋和子氏。「一緒に考えましょう 私たちの暮らし・環境・エネルギー」をテーマに、放射線のリスクや日本のエネルギー問題などについてお話しいただきました。
また、当会事務局長との対談の場も設けて意見交換を行い、貴重なご意見をいただきました。



科学ジャーナリスト
東嶋 和子 氏
筑波大学、青山学院大学非常勤講師
筑波大学卒。在学中、米国カンザス大学に文部省交換留学。読売新聞社科学部記者を経て独立。「いのち」をキーワードに科学と社会の関わりを追っている。外務省外交フォーラム外務大臣賞、原子力学会社会・環境部会優秀活動賞受賞。主な著書に『水も過ぎれば毒になる 新・養生訓』『人体再生に挑む』『放射線利用の基礎知識』『死因事典』など。

放射線とリスク

原子力やエネルギーの話に入る前に、放射線に

ついて皆さんご自身がリスクを正當に怖がっているかを考えていただきたいと思っています。
私が大事にしている言葉に「ものを怖がらなすぎたり、怖がりすぎたりするのはやさしいが、正當に怖がることはなかなかむづかしい」という言葉があります。普段、私たちは印象で怖がらなすぎたり怖がりすぎたりしてしまいます。しかし自分の命や暮らしを守るためには、客観的、

定量的なデータを元に正當に怖がることで、なるべくリスクの少ない方を選択していくことが大事なのです。
下図は、放射線による発がんのリスクと普段の生活による発がんのリスクを比較した表（放射線と生活習慣による発がんの相対リスク比較：国立がん研究センター）です。例えば、1000〜2000 mSvの放射線を一度に浴びた人は発がんリスクが1・08倍になります。塩分のとりすぎや運動不足のほうがリスクが高いとお分かりになるでしょう。500〜

講演会 あいさつ

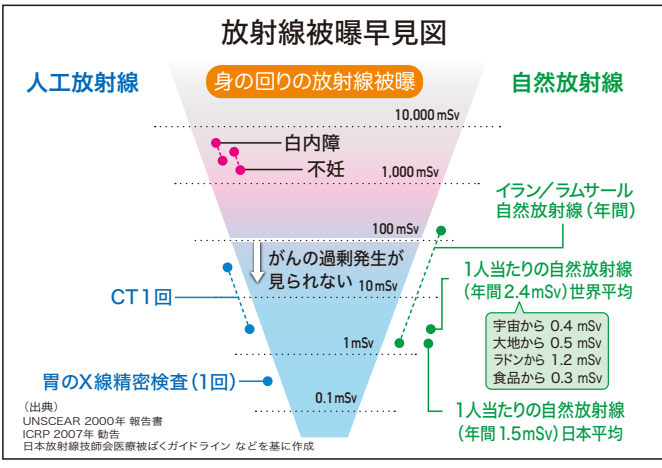


上関町 青壮年連絡協議会 会長 藤井 快宏

皆さま、本日はお忙しいなか多数ご来場いただきありがとうございます。協議会を代表しまして一言ご挨拶させていただきます。
講師の東嶋和子さまにおかれ

ましては、遠路上関までお越しいただき、厚く御礼申し上げます。
さて、ここ上関町は高齢化が進み、人口の減少に歯止めがかかっていないことは、すでに皆さまご承知と存じます。
私たち青壮年連絡協議会は、この上関が発展していくためには若者の定住や雇用の場が確保できる原子力発電所の建設が必要不可欠だと考えております。

この度の国のエネルギー基本計画には原子力発電所の新增設の記述はありませんでしたが、私たちは原子力発電所立地を契機とした町づくり実現に向け、町民の皆さまと一緒にこれから粘り強く活動を続けていくことが大切であると考えております。
本日は東嶋先生に『一緒に考えましょう私たちの暮らし・環境・エネルギー』というテーマでご講演いただきました。この講演会が皆さまにとって有意義な時間となることを祈念いたしまして、開会にあたってのご挨拶いたします。



がんのリスク(放射線と生活習慣)

放射線の線量(ミリシーベルト)	がんの相対リスク	生活習慣因子
1,000~2,000	1.8 1.6	喫煙者
500~1,000	1.4 1.4	大量飲酒(毎日2合以上)
200~500	1.19 1.15~1.19 1.11~1.15	運動不足 高塩分食品
100~200	1.08 1.06 1.02~1.03	野菜不足 受動喫煙(非喫煙女性)
100未満	検出困難	

出典：国立がん研究センターホームページを基に作成
※放射線の発がんリスクは広島・長崎の原爆による顕微鏡的な被曝を分析したデータ(固形がんのみ)であり、長年にわたる被曝の影響を観察したものではありません。

これをふまえて、放射線被曝の早見図をご覧ください。放射線の量は桁でおおまかに見てください。